

# 無加温11月出荷向け 洋マム栽培の手引き



2022年3月

発行 花の国づくり滋賀県協議会

(監修 滋賀県農業技術振興センター)

洋マムはブライダル等の業務用や、ブーケ、アレンジメント、パック花などのカジュアルフラワーの花材として需要があります。

少量多品種で生産する直売向きの推進品目として位置付け、無加温での11月出荷生産体系を確立し、花き生産者の所得向上を図ります。

## 1. 作型

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
						元肥	定植準備	挿し芽	電照	消灯		収穫

- ・ビニールハウスでの土耕または少量土壌培地耕とします。
- ・電照による開花調整が必要です。
- ・品種はデコラ系、スパイダー系、ポンポン系などがあります。
- ・開花時の草丈が100cmを超える品種もあります。



デコラ系



スパイダー系



ポンポン系

## 2. 栽培管理

### (1) 挿し穂の確保

- ①洋マムは少量多品種栽培での出荷が望ましいため、挿し穂は購入穂木を推奨します。
  - ・登録品種の場合は栽培許諾料が別途に必要です。
- ②自家採穂をする場合は生育の揃った穂を確保します。
  - ・前作に伝染性病害に罹患していない健全な株を残します。
  - ・病虫害防除は親株の時期から早期防除に努めます。

### (2) 本ぽへの直挿し

- ①挿し穂の発根促進処理
  - ・2週間程度、7℃に設定した冷蔵庫で貯蔵します。
  - ・挿し穂全体をインドール酪酸液剤(商品名：オキシベロン液剤)の200倍希釈液で10秒間の浸漬処理を行います。
- ②本ぽの準備
  - ・元肥は緩効性肥料を用いて、10a当たり窒素分量で15kgを施用します。

- ・土づくり資材を投入してから耕うんし、植床幅80cmのうねを立てます。
- ・植床上部の外周は高さ3cm程度の盛土状にし、かん水時に水が流れないようにします。
- ・ビニールハウス内の温度上昇を軽減させるために、遮光資材を屋根にかけます。
- ・遮光資材は、直挿し直後から発根までは、遮光率60%のシルバー素材とあわせて遮光率35%のホワイトメッシュ素材の二重がけとします。発根以降は9月中旬まで遮光率35%のホワイトメッシュ素材の一重がけとします。
- ・生育期間中は電照処理により開花調整を行うため、電照設備を取り付けておきます。

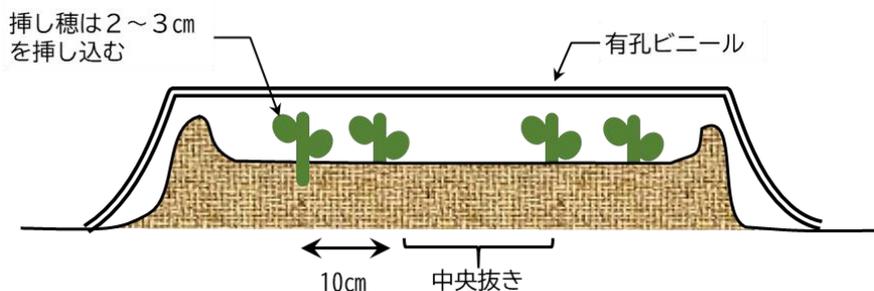


### ③直挿し作業

- ・8月中旬に直挿しをします。
- ・植栽間隔は、中央抜きで10cm×10cmの4条とし、挿し穂の基部2～3cmを植床に押し込みます。
- ・土壌が硬い場合は挿し穂が折れないように、こてなどを利用するとよいでしょう。
- ・直挿し後は十分にかん水します。かん水量が少ないと活着不良となることがあります。

### ④直挿し後のべたがけ

- ・土壌と挿し穂が乾燥しないように有孔ビニール(0.03mm)を用いてべたがけを行います。
- ・べたがけ内の温度が高温になったり、局所的に日光が当たったりすると枯死する場合があります。
- ・有孔ビニールの除去までに土壌が乾燥している場合には適宜かん水を行います。



### ⑤有孔ビニールの除去

- ・10～14日で発根するので、全ての株で発根が確認できたら有孔ビニールを除去します。

### (3)電照処理

- ・電照は直挿し直後から行い、22:00～翌2:00の4時間の暗期中断とします。
- ・消灯は草丈が30～35cmまで行います。
- ・開花時期(到花日数)は消灯後45～60日で品種によって異なります。
- ・品種によって電照期間や到花日数が異なるため、種苗会社のカタログを確認してください。

### (4)矮化处理

- ・花首伸長抑制のために、消灯20日後にダミノジット水溶液(商品名：ビーナイン顆粒水溶剤)の2000倍希釈液を、1株当たり1.5mLを頂部に散布します。
- ・栽培方法や品種により、1～2回の散布とします。

### (5)脇芽の除去

- ・脇芽の除去を行い、中央の蕾を一つ残します。

### (6)収穫、出荷調製

#### ①収穫

- ・収穫は、花を横から見たとき花弁が水平よりやや下がったくらいが適期です。
- ・蕾付近の茎が柔らかく、蕾の引っ掛かりや体の接触によって折れやすい品種があるため、取り扱いには十分に注意してください。



#### ②出荷調製

- ・収穫後は十分に水揚げを行います。
- ・花弁が落ちやすいため丁寧に取り扱い、花弁の損傷を防止するために蕾をネットで覆います。

### 3. 病虫害防除

- ・主な病虫害はアブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、白さび病が発生します。
- ・アブラムシ類が花弁の中に入ってしまうと品質低下を招くため、早期発見と初期防除を行ってください。
- ・農薬登録の最新情報は農林水産省の「農薬登録情報提供システム」にて確認できます。(https://pesticide.maff.go.jp)



農薬登録情報  
提供システム